

「大阿蘇青少年ボランティアリーダー塾」事業報告書

企画指導専門職 三枝ひとみ

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 ボランティア養成研修を通して、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- (2) 期 日 平成 29 年 5 月 13 日 (土) ~ 14 日 (日) 1泊2日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 9 名 (大学生 8 名・一般 1 名)
- (5) 講師 NPO 法人田舎のヒロインズ理事 藤原美里 氏
WakuWaku OFFICE あそBe 隊代表 薄井良文 氏
高田短期大学子ども学科教授 山口昌澄 氏
- (6) 担当職員 三枝ひとみ (企画指導専門職) 山下正晃 (企画指導専門職)
松元延行 (事業推進係長) 古賀久恵 (事業推進係員)
古閑仁美 (事務補佐員)
- (7) 運営ボランティア 赤池雄汰 (熊本大学 3 年) 小林桃菜 (熊本大学 3 年)
早田佳織 (熊本大学 3 年) 中川優実 (熊本大学 3 年)
達見一也 (熊本大学 2 年)
- (8) 内 容 機構が定める「ボランティア養成共通カリキュラム (13 時間)」に基づき、先輩ボランティアが企画・運営するワークショップや阿蘇の特性を生かした体験活動、体験活動時の安全管理の研修を実施した。

2 成果と課題

- (1) 成 果
 - 講義だけでなく体験を通して内容を理解できるように演習を多く取り入れたことにより、参加者が積極的に参加することができ、高い満足度を得ることができた。(満足度 100%)
 - 運営ボランティアによる工夫を凝らした交流の家の紹介やボランティア活動についての説明により、参加者が今後のボランティア活動をより具体的に理解することができた。
 - 「これから積極的にボランティアに参加したい」「子どもとの接し方など学んだことを生かしたい」などの感想があり、参加者のボランティア活動への意欲を高めることができた。
 - 運営ボランティアがプログラムの企画・運営について自主的・計画的に準備をしたことで、スムーズな運営となり自分たちの活動に自信を持つことができ、今後の自主企画事業への意欲が高まった。
- (2) 課 題
 - 参加者が募集人員に達しなかった。大学のボランティア担当やボランティアサークルとのつながりをつくって学生に直接広報する場を増やす、事業実施時期を検討する、募集チラシに送迎についての案内を明記するなど参加者を増やす方策を考える必要がある。
 - 野外調理時の服装や第 1 キャンプ管理棟への案内など安全についての周知を徹底する。
 - 自主企画事業や今年度の事業内容についての案内を行い、参加者のボランティア活動への意欲を維持し、今後のボランティア活動につながるようにする。

3 事業の様子



運営ボランティアによるアイスブレイク



演習「阿蘇青少年交流の家を知ろう」



講義「ボランティア活動の実際」



野外調理（ピザと野菜スープ作り）



講義「ボランティア活動の魅力」



運営ボランティアによる朝のつどいの進行



講義「青少年教育の理解」



演習「安全管理について学ぼう」